

京丹後にも米軍基地はいりません！



宇川地区の皆さん、私たちは米軍Xバンドレーダー基地建設に反対する「緊急京都府民の会・南部連絡会」です。私たちは京丹後市・経ヶ岬での米軍基地建設に反対し、これまで京都市内など京都府南部において署名活動や京都府に対する申し入れ等を行ってきました。

防衛省は説明責任を果たすべき

この米軍基地建設には分からないこと、隠されていることが多すぎます。基地建設予定地に具体的にどのような建物が建てられるのかさえ分からず、160人の米軍人・軍属がどこに住むのかもまだ明らかにされていません。電磁波の影響、環境への負荷、軍事攻撃の標的になる危険性…これまでの防衛省近畿中部防衛局の説明ではすべてまったく不十分です。その不十分な説明も、京都府知事と京丹後市長による「受け入れ表明」以降は、ほとんどまったくなされておらず、ただ用地の借り上げに向けた動きだけが先行しています。あまりにも不誠実と言わざるをえません。防衛省は人々の不安と向き合い、納得のいく説明を続けるべきです。

いまの日米地位協定では住民の「安全・安心」は守られない

沖縄をはじめ全国の米軍基地のある地域で、米軍人・軍属による犯罪や事故が起こっていないところは一箇所もありません。それが現実です。2006年にXバンドレーダーが最初に配備され、約100人の米軍関係者が駐留する青森県の車力でも、市民への暴行事件や交通事故が起こっています。米軍基地内は「治外法権」であり、基地に逃げ込まれてしまえば被害者は泣き寝入りです。米軍に特権的な地位を与えている現在の不平等な日米地位協定のもとでは、米軍人・軍属による事件や犯罪の発生を防ぐことはできません。

防衛省は用地取得を中断して、誠意ある説明と事前調査を

防衛省近畿中部防衛局は納得のいく説明を行わないまま、ただいたずらに用地取得だけを急いでいます。これは非常に理不尽です。防衛省は納得の行く説明と情報開示を行い、同時に、米軍基地の建設が住民の暮らしにどのような影響を及ぼすのか、周辺地域の貴重な環境や景観にどのような影響を与えるのか、きちんとした事前調査を実施すべきです。それを行うまでは、用地の借り上げをはじめ基地建設に向けたいかなる動きも中断すべきだと私たちは考えます。

京都府知事や京丹後市長が「受け入れ表明」をしたからと言って、それですべてが決まってしまった訳では全くありません。この基地建設は止めることができます。私たちは平和な暮らしと豊かな自然を守りたいと願う宇川地区の皆さんとともに、現在そして未来のために、この危険な米軍基地建設を止めるために力を合わせていきたいと思えます。

(2013年11月13日)

「止めよう！経ヶ岬の米軍レーダー・危険な戦争準備を許さない」

緊急京都府民の会・南部連絡会



共同代表 大湾宗則 上岡修 白井美喜子 木原壯林 瀧川順朗 仲尾宏

連絡先 〒602-8347 京都市上京区四番町 121-5 大湾宗則

TEL/FAX 075-467-4437 kyogamisaki2013@yahoo.co.jp